

2度の火災乗り越え、旦過の復興へ 市議団、再整備進む旦過市場を視察

10月3日、旦過市場商店街の黒瀬善裕副会長と草野尚嗣・神嶽川旦過地区整備室長の案内で、2度の火災を受け再整備が進む旦過市場を視察しました。

室長は事業の進捗状況を説明。副会長は市場の再整備が進む一方、店主の高齢化や、店の開店・閉店時間と客足の食い違いが出ていることなどを指摘。市場再生への力添えを訴えました。



旦過市場を視察

相次ぐ学校給食無償化自治体

給食無償化を

住民運動などによって学校給食の無償化に踏み切る自治体が相次いでいます。2023年10月現在、493自治体で実施されています。

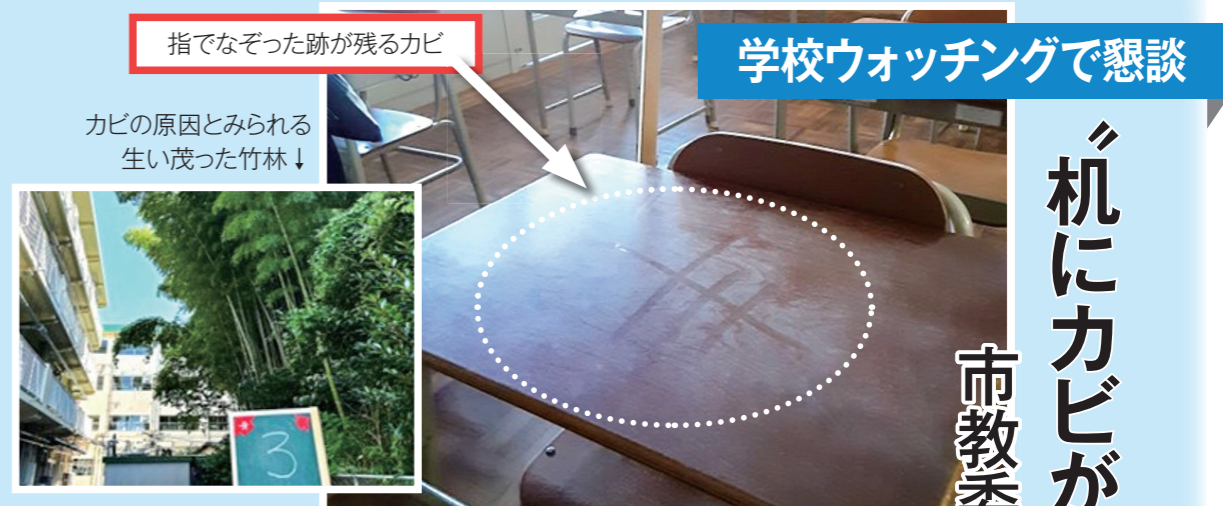
福岡県内では何らかの形で無償化を実現した自治体は17自治体に。「誰一人取り残さない教育、学校給食の実現」は、「子育て日本一」を掲げる北九州市にとって緊急の課題となっています。

市民の暮らし、安全を守る



↑懇談の様子
↑屋根の素材にアスベスト使用疑い
全写真はコチラ
(学校名は伏せています)

- 公共施設を良くする会 2008年に発足。公共施設を市民目線でチェックし、市民にとって安全で使いやすい施設にしていくことを目的とした団体。
- 学校ウォッチング 「良くする会」が主体となり、子どもたちの快適な教育環境と施設周辺地域の安全な環境の実現を願い、学校施設改善を中心に市に要望を届けている。今年度は14校(各区2校ずつ)の視察を実施しました。



カビの原因とみられる生い茂った竹林↓

日本共産党市議団も加わる「北九州市の公共施設を良くする会」は10月13日、学校ウォッチング(8月22日実施)を受けて、市教育委員会との懇談を行いました。

懇談に20人以上が参加し、約2時間にわたって意見交換しました。参加者からは、「トイレが圧倒的に少なく『授業中にトイレに行かせてほしい』と手を挙げる生徒が複数いる」「学校が竹林に覆われ、カビが机にビッシリ生えている。子どもの健康がとても不安」「予算の関係ですぐ修理されない」などの訴えが相次ぎました。

市教委は「持ち帰って再度検討」や「再調査」など前向きな姿勢も示しました。

市議団は、「カビ」の酷い学校について緊急に視察を行い、再度教育委員会へ改善要望を申し入れるなどの対応を予定しています。

学校ウォッチングで懇談

机にカビがビッシリ 市教委に改善を要望

白島石油備蓄基地を視察



8月2日、白島国家石油備蓄基地を視察しました。響灘沖合8キロに位置する世界でも例のない外洋の洋上備蓄基地です。

同基地を管理・運営する白島石油備蓄(株)の役員らの案内で説明を受け、基地の仕組みや防災対策、備蓄の現状などについて質問しました。

6月議会では山内議員が、同基地が初めて実施した行先不明の28万キロリットルの石油放出(22年6月20日〜9月30日)の背景について質問。

企画調整局長の「テロの被害であるとか、武力行為による被害、こういった想定の有無を含めて市の方では知らされていない」との答弁に対し、基地が特別防災区域に指定されているほど危険な地域であると指摘。周辺住民を対象とした安全確保と防災計画の策定を強く求めました。

市議団の行動力

特別防災区域の国家石油備蓄基地

住民の安全確保を

土地利用規制法・区域指定 住民の理解なしの区域指定を行わないこと

10月10日、武内市長に対し「土地利用規制法に基づく区域指定のすべての資料公開と、住民の理解なしの区域指定を行わないことなどを求める緊急申し入れ」を行いました。

市内では、陸上自衛隊小倉駐屯地、陸自富野弾薬支処から1キロ以内の地域が区域指定候補とされました。周囲1キロが監視対象になり、「機能阻害行為」が確認され、従わなければ刑事罰が科されます。重大な問題は、誰を対象かなど核心部分をすべて政府の判断に任せていることです。

市議団は①内閣府から本市に届いた通知、資料をすべて住民に公開すること②個人情報を政府に提供する場合には、当該個人の同意をとること③「注視区域」「特別注視区域」の候補となる区域のある住民の理解なしに区域指定を行わないことなどを強く求めました。



市に申し入れ

堀江氏の市アドバイザー解任を インボイス制度で暴論展開



クロスエフエム(本社・北九州市)会長の堀江貴文氏を市アドバイザーに任命した問題で、日本共産党市議団は10月23日、同氏の解任を求める申し入れを行いました。

堀江氏が9月27日、投稿サイトでインボイス制度に反対している人たちに対し、「バカのせいで税金が無駄遣いされています」「ちょっと頭の弱い人たちがワーワー騒いで」「デモとかしている暇あったらもっとお前ら、自分のスキル磨けや」などと揶揄したことを受けてのものです。

申し入れは、インボイス制度導入反対署名が全国で56万人を超えるなど反対の声が大きく広がっていること、また、北九州市では中小企業・小規模事業者が99%を占めるなど、産業の大きな柱になっていることを指摘。堀江氏の発言は許されるものではないとして、アドバイザーの選考基準を明確にすることも求めています。